令和６年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

<table>
<tr><td rowspan="2">会議</td><td>部会名</td><td>こども・若者部会
第２回支援ネットワーク連絡会</td><td rowspan="2">参加者数</td><td rowspan="2">33 人</td><td rowspan="2">会場</td><td rowspan="2">伊那市
防災コミュニティセンター
多目的ホール</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>令和７年１月 14 日（火）
15:30～17:30</td></tr>
<tr><td>主テーマ</td><td colspan="6">（1）研修
①「長野県発達障がい情報・支援センター「といろ」について」
②「発達障害の地域支援体制づくりと住民への啓発」
（2）地域ケアパスの取り組み状況
（3）その他</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">（1）研修
① 長野県発達障がい情報・支援センター「といろ」について
講師：長野県発達障がい情報・支援センター「といろ」
長野県発達障がい情報・支援センターは、発達障がい児・者への支援体制の整備を目的とした拠点機関。厚生労働省の「発達障害者支援センター運営事業実施要綱」に基づく事業で、2023 年４月より信州大学が長野県から業務委託を受け運営。
昨年度の実績報告：相談受付 219 件、研修会開催数：71 回（合計参加者数 4049 名）、HP：19000 ユーザー
相談の ９ 割が成人。5080 問題、パートナー（夫・妻）、きょうだいの相談が多く、それぞれの地域や支援者へ橋渡しを担っている。

② 発達障がいの地域支援体制づくりと住民への啓発
講師：信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室
近年の発達障がい児・者の実態調査によると、診断基準の拡大や社会的認知の向上の影響により年々増加し、全体の約 10～15%が該当すると言われている。
Q-SACS（キューサックス）は各自治体が地域特性を分析し、支援の流れや役割を示した支援者向けのガイドラインに対し、地域ケアパスはQ-SACS を元に支援内容や関係機関との連携を明確化した一般公開向けのガイドラインである。実用化すれば利用者自身がライフステージごとに必要な支援へアクセスできるものになる。

（2）地域ケアパスの取り組み状況
・箕輪町と伊那市より、地域ケアパスの作成状況を発表。
「各課が集まることでそれぞれの支援体制や支援の流れなどの確認ができた。」
「専門的用語が多くなってしまい一般向けの言葉に変える必要があった。」
「3 年前に作成した Q-SACS の情報更新が必要になった。」
「情報を得たい人に対してはとても分かりやすいものになると思った。」
等、実際にケアパスを作成したことにより生じた困り感や感想を共有し、講師よりスーパーバイズを受けた。

（3）その他
・義務教育後のつなぎ、高校転退学後の動向について
高校中退者に配布する資料「新たな進路のために」（長野県教育委員会）、中学校卒業生に配布する資料（駒ケ根市、中川村、飯島町）の内容と、令和６年度中学校卒業～高校生年代の各市町村相談窓口を共有した。</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td colspan="6">・研修により、地域ケアパスの概念を理解できた。
・各自治体の発表後にスーパーバイズを受けることで、作成時の注意点や改善点を共有することができた。</td></tr>
<tr><td>次回</td><td colspan="6">今年度の開催は終了。</td></tr>
</table>